

(2024 年 2 月 7 日開催)

<電子・先端プロダクツ>

Q1：アセチレンブラックは、高圧ケーブル向けが欧州での工事遅れにより需要が落ち込んでいることに加え、xEV 向けが欧州での補助金縮小の影響を受けているとの説明だが、今後の成長見通しを変更する状況になっていないのか？また、投資を決定したタイでの増産計画に変更はないか？

A1：高圧ケーブル向けは欧州での工事が一時的に先送りとなっているものがあるが中止となっているものは限定的。また、xEV 自体の拡大基調は続いており、アセチレンブラックは一定のシェアを維持している。加えて、競合のカーボンナノチューブとミックスして使用する案件も進んでいる。その為、今後の成長見通しに変更はなく、タイでの増産計画にも変更はない。

Q2：球状シリカは需要の回復に時間を要しているが、回復はいつ頃を想定しているか？成長が期待できる生成 AI 向けの需要はどのような状況か？

A2：民生向けは需要の回復に時間がかかっており 2024 年度後半から回復すると見込んでいる。生成 AI 向けや高周波対応基板へは足元既に販売数量が回復基調にある。

<エラストマー・インフラソリューション>

Q3：営業利益が 2Q から 3Q にかけて悪化している要因は？

A3：クロロプレンゴムにおいて、需要減少による稼働率の低下や米国 DPE (Denka Performance Elastomer LLC：米国クロロプレンゴム製造子会社) でのコスト増加により固定費単価が大幅に増加したことで、在庫評価減を 3Q に計上したことが主要因である。

Q4：営業利益の通期予想が能登半島地震の影響により 11 月発表から悪化したとのことだが、その内容は？

A4：クロロプレンゴムの製造プラントが 1 月末まで操業停止をしたことで、減産による出荷減による販売影響が▲11 億円となる見込みに加え、操業を停止したことによって固定費単価が上昇し、在庫評価減が拡大するなど、コスト影響が▲23 億円となる見込みである。

Q5：クロロプレンゴム事業の抜本的対策を 2024 年中に決定するとのことだが、今後の需要動向を精査したうえで最適生産能力を精査するとなると、決定の時期は 2024 年の後半になってしまうのか？

A5：クロロプレンゴム事業の抜本的な対策については、最優先課題として検討しており、可能な限り早く決定したいと考えている。

<その他>

Q6：2025 年度以降は、コストダウンプロジェクトで大きな成果を出すとのことだが、2024 年度には成果が出ないのか？

A6：今までもコスト削減に向けた取り組みを行ってきたが、今回のプロジェクトは社外のベストプラクティスを取り入れる為、適用に時間を要すると想定している。しかし当然、想定を上回る効果を出すべく社長が先頭に立って進めていく。

以上